

# 外国人留学生の就職成功と失敗の要因分析

## —日本私立 Y 大学の就職支援取り組みから—

段 鉦 潘 秋 静 三 好 登

### 要旨

本研究は、日本の私立 Y 大学を事例に、外国人留学生の就職成功および失敗事例を比較分析し、就職成果を左右する要因を明らかにすることを目的とする。その結果、個別支援の充実、日本語能力の向上、業界研究の強化、インターンシップの積極的活用が、留学生の就職成功に寄与する重要な要因であることが確認された。一方で、相談機会の不足、業界研究の欠如、日本語能力の不足が就職失敗の主な要因であった。特に、継続的なキャリア支援の有無が、留学生の就職活動の成否を決定づける要素であることが示唆された。本研究は、大学におけるキャリア支援の具体的な影響を実証的に示し、今後の支援策の方向性について有益な示唆を提供する。今後の研究では、異なる国籍の留学生の就職支援事例や企業側の視点を加え、留学生支援の包括的な枠組みを構築することが求められる。

【キーワード】 留学生、キャリア支援、就職指導、日本

### 1. はじめに

近年、日本における外国人留学生の受け入れは拡大を続けており、特に中国人留学生の割合が最も高い。文部科学省（2023）の統計によれば、日本に在籍する外国人留学生は約 30 万人に達し、そのうち中国人留学生は約 12 万人と全留学生の約半数を占めている。このような状況のもと、日本政府は「留学生 30 万人計画」などの政策を通じて、優秀な外国人留学生の誘致と定着を推進し、高度外国人材の国内就職を促進する取り組みを進めている。しかし、外国人留学生が日本でキャリアを形成し、就職活動を成功させるためには、多くの課題を克服する必要がある。

既存研究では、外国人留学生の就職に関する主な障壁として、言語の壁、文化的適応の難しさ、日本企業特有の採用プロセスへの不慣れ、

ビザ要件の厳格さなどが指摘されている。佐藤（2020）は、ビジネス日本語の習得が不十分な場合、採用プロセスにおいて不利になることを明らかにした。また、九門（2022）は、特に非漢字圏出身者や英語コース在籍者が、日本語能力の不足によって日本企業の求める水準に達しづらく、就職に困難を抱えることを指摘している。加えて、門間ほか（2019）は、外国人留学生は日本人学生と比べて就職活動のプロセス理解が不足しており、活動開始時期が遅れることが多い点を課題として挙げている。さらに、久保田（2015）は、日本企業の採用文化に适应することが難しく、エントリーシートや筆記試験、面接試験などの選考過程において、日本語能力と企業文化の理解が求められることが、留学生の就職活動の障壁となっていると述べている。

一方、寅丸ほか（2018）は、教育機関が提供

するキャリア支援と留学生のキャリア意識との間に「ずれ」が存在することを示し、大学の支援体制が必ずしも留学生のニーズに適合していない点を問題視している。さらに、尹 (2019) は、大学院での学習経験がキャリア形成に与える影響を分析し、大学での学びが就職後のキャリア形成において重要な役割を果たすことを明らかにした。

しかし、従来の研究では、外国人留学生の就職支援の必要性が指摘される一方で、大学のキャリア支援が具体的にどのような影響を及ぼしているのかについての実証的研究は不足している。例えば、外国人留学生の就職成功と失敗において、大学のキャリア支援がどのような役割を果たしているのかについての検討は十分に行われていない。そのため、本研究では個別大学の事例をもとに、大学のキャリア支援の有効性を検証し、留学生の就職成功・失敗を左右する要因を明らかにすることが求められる。

## 2. 研究目的

以上の研究背景や問題意識を踏まえ、本研究では、私立 Y 大学を事例として、外国人留学生向けの就職・キャリア支援の実態を明らかにし、その有効性を検証する。特に、就職成功事例と失敗事例の比較分析を通じて、留学生の就職成功を左右する要因を特定し、効果的な支援策の要素を明確にすることを目的とする。さらに、大学のキャリア支援がどのように就職結果に影響を与えているのかを検討し、今後の留学生支援の改善に向けた示唆を提供する。

## 3. 日本の大学における留学生キャリア支援プログラムの一般像

多くの大学では、留学生のキャリア形成を支援するプログラムの充実が求められており、特

に日本語能力の向上支援、業界研究の強化、インターンシップ機会の提供、就職活動に関する実践的指導などが重要視されている。日本の大学における留学生キャリア支援プログラムは、各大学の特徴に応じた多様な取り組みが見られるが、図 1 に示すように、多くの大学では就職・キャリアセンターを中心とした統一的な支援体制、多言語対応の就職ガイダンス、インターンシッププログラムの導入といった共通点がある。以下では、それらの具体的な取り組みについて整理する。

### (1) 就職・キャリアセンターを中心とした支援体制

多くの日本の大学では、キャリアセンターが留学生向けの就職ガイダンスや個別相談、企業説明会を開催し、留学生が日本の就職市場や採用プロセスを理解する機会を提供している。東京大学は、留学生向けに多様な就職支援を提供している。例えば、「留学生のための JOB FAIR」では企業と直接交流でき、「Link to the World-UTokyo 外資系企業キャリアフェア」ではグローバル就職の機会を提供する。さらに、「留学生のためのキャリアシンポジウム」では日本企業の人事担当者とディスカッションが可能である。加えて、グローバル教育センター留学生支援室やキャリアサポート室が個別相談を行い、大学推薦制度も活用できる。これらの取り組みを通じ、留学生の多様なキャリア形成を支援している。

### (2) インターンシッププログラムの定着

大学が提供するインターンシッププログラムは、留学生が日本の企業文化や職場環境を理解し、実践的な業務経験を積むための重要な機会となっている。例えば、慶應義塾大学では、多国籍企業や中小企業と連携し、留学生専用のインターンシップ枠を設けるなど、外国人学生の

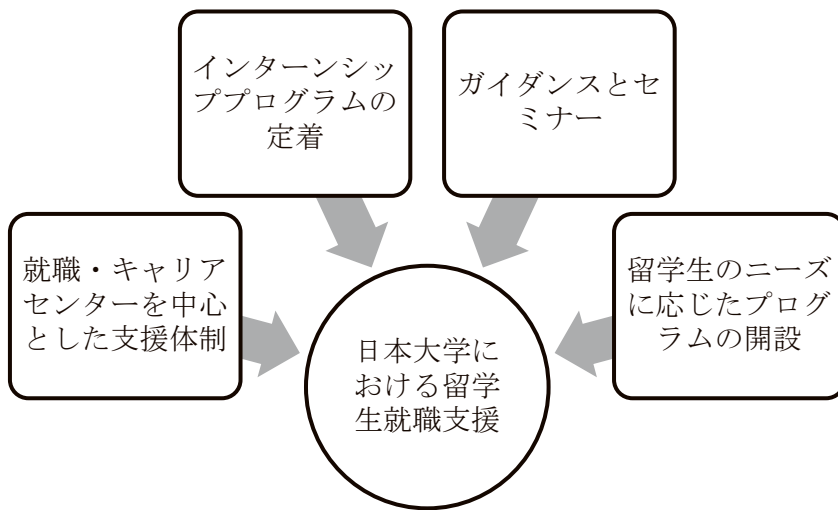


図1 日本における留学生就職支援

受け入れを促進する取り組みを進めている。例えば、早稲田大学の就職支援は、対象別に細分化されたインターンシップや支援プログラムを通じて、学生の多様なキャリアニーズに対応している。学部1・2年生にはキャリアデザイン基礎教育を提供し、3年生・修士1年生にはインターンシップや業界研究の機会を設け、4年生・修士2年生には合同企業説明会や選考準備支援を行う。博士課程の学生にはキャリアデザインカンファレンスを通じてアカデミア・産業界双方の進路を支援し、外国人留学生や障がいのある学生にも専門の支援担当者を配置する。このように、早稲田大学は個々の状況に応じた包括的な支援体制を構築し、学生の主体的なキャリア形成を促進している。

### (3) 就職ガイダンスとセミナー

日本の大学では、日本語のみならず英語やその他の母語を活用した就職ガイダンスを提供するケースも増えている。例えば、山梨学院大学では、日本語に不安を抱える留学生のために、中国語や英語およびベトナム語でキャリア支援セミナーを実施し、履歴書の書き方や面接対策

について指導している。

### (4) 留学生のニーズに応じたプログラムの多様化

留学生支援の参考例として、関西大学は、「KU 留学生キャリア形成支援プログラム (KU-SUCCESS)」を通じて、外国人留学生の日本での就職活動を体系的に支援している。KU-SUCCESS プログラムは、文部科学省の「留学生就職促進教育プログラム」に認定されており、日本語能力、ビジネス日本語、キャリア教育、インターンシップの4つの領域に重点を置く。特に、ポイント制カリキュラムを導入し、各分野の学習と実践経験を積み重ねることで、留学生の就職準備を促進している。さらに、日本企業との交流機会を提供することで、企業文化の理解や実務経験を深める機会を創出している。こうした多角的な支援により、関西大学は留学生の日本企業への就職を積極的に後押しし、異文化環境でのキャリア形成を支援している。このような取り組みは、単なる情報提供にとどまらず、留学生が実際の就職活動で求められる能力を養うことに重点を置いている点

で重要な意義を持つ。

4. 事例研究：Y 大学における留学生の  
キャリア支援とその効果

4.1 事例校を選択する妥当性

Y 大学は、外国人留学生の受け入れに積極的  
に取り組んでおり、特に経営学部において中国  
人留学生の比率が高いことが指摘されている  
(潘ほか, 2023)。また、Y 大学では留学生向け  
のキャリア支援プログラムが比較的充実してお  
り、大学の支援が留学生の就職成功にどのよう  
に影響を与えているのかを検討する上で適切な  
事例となる。本研究では、Y 大学を対象に留学  
生のキャリア支援の実態を分析し、就職成功事  
例と失敗事例の比較を通じて、支援の有効性と  
課題を明らかにする。

4.2 Y 大学における就職支援の体系的ア  
プローチと留学生への特化支援

Y 大学は、学生のキャリア形成を体系的に支  
援するため、学年ごとに異なる就職支援アプ  
ローチを行なっている (図 2)。これにより、  
学生が低学年から段階的にキャリア意識を高  
め、適切な進路を選択できるよう支援を行って  
いる。さらに、留学生に対しては、日本の就職  
活動への適応を促進するための特化支援を提供  
し、日本語力や文化的な違いを考慮したプログ  
ラムを実施している。

(1) 1 年次から：キャリア意識の醸成

1 年次では、キャリア形成の基礎を築くた  
め、新入生ガイダンスを実施し、日本の就職市  
場の特徴や就職活動の流れについての基本的な  
知識を提供する。これにより、学生は早期から  
進路について意識し、主体的にキャリアを考え  
る契機を得る。特に、留学生向けには、日本語  
と中国語の二言語対応セッションを導入し、言

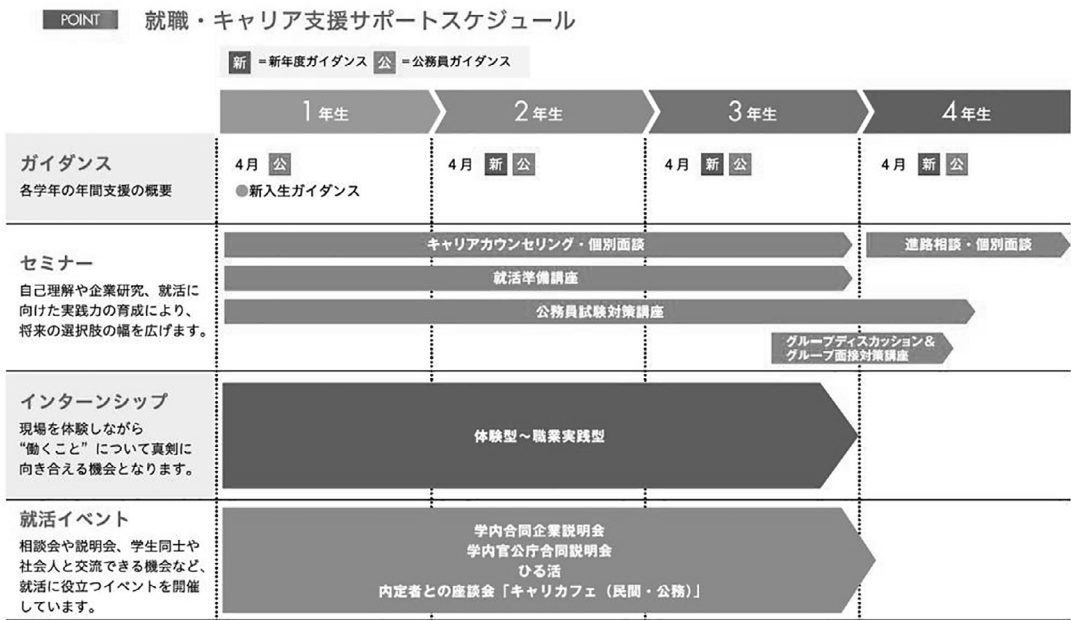


図 2 Y 大学における就職・キャリア支援の流れ

出典：Y 大学の就職支援ホームページ (<https://www.ygu.ac.jp/for-students/career-support/support/>)



語的なハードルを低減しながら、日本の雇用文化や履歴書の書き方、面接プロセスを学ぶ機会を提供する。また、キャリアデザインワークショップを通じ、留学生が日本でのキャリア形成を具体的にイメージできるよう支援している。

#### (2) 2年次から：自己分析と業界研究

2年次には、キャリアカウンセリングや個別面談を開始し、学生の強みや適性を明確にするための支援を行う。就活準備講座や公務員試験対策講座を開講し、履歴書作成、エントリーシートの書き方、自己PRの方法など、実践的なスキルの習得を促す。

Y大学は、インターンシッププログラムの充実を図り、地域企業および全国規模の企業と連携を強化し、サービス業、情報通信業、製造業など、幅広い業種での実習機会を提供し、学生が日本企業における実践的な業務経験を積むことを可能にしている。現在、75社以上の企業と提携し、年間200名以上の学生がインターンシップに参加しており、そのうち12名は留学生である。一方、留学生向けのインターンシップ機会の提供に注力しているが、現状では留学生の参加率が低く、その要因として、大学の広報活動の不足および留学生の参加意欲の向上に課題が見受けられる。

また、Y大学では留学生向けに年1回以上の個別キャリア面談を実施し、学生の強みやキャリア目標を分析し、それに基づいた具体的なアドバイスを提供する。さらに、日本企業の採用プロセス理解講座や業界研究セミナーを開催し、日本でのキャリア形成に必要な情報を提供する。加えて、留学生向けのインターンシップ枠を設け、企業とのマッチングを支援している。

#### (3) 3年次から：実践的な就職活動の準備

3年次では、就職活動が本格化するため、個別面談や履歴書作成、模擬面接などの指導を強

化する。また、企業との連携によるマッチング支援が活発化し、合同企業説明会や業界セミナーを開催し、より具体的な企業情報を提供している。さらに、グループディスカッションやグループ面接対策講座を実施し、実際の選考プロセスを想定したトレーニングを提供する。

留学生向けの支援として、就活ゼミを開講し、内定者による講話やワークショップを実施する。ここでは、日本の就職活動における成功事例や課題が共有され、より具体的な戦略を学ぶことができる。また、留学生向け模擬面接セミナーでは、言語や文化の違いを考慮し、適切な受け答えの練習を行う。企業とのネットワーキングの機会も提供され、留学生と採用担当者の交流を促進するイベントが開催されている。

#### (4) 4年次：本格的な就職活動と内定獲得支援

4年次には、進路相談や個別面談を通じ、具体的な企業選びや内定獲得のための支援を強化する。合同企業説明会や採用マッチングイベントが開催され、企業と直接接触する機会が増える。また、「キャリアカフェ」などの内定者交流イベントを実施し、先輩の体験談を通じ、就職活動の成功事例や実践的なアドバイスを得る機会を提供する。

留学生向けには、就労ビザ取得に関する説明や個別相談を実施し、日本での就職を希望する学生がスムーズにビザを取得できるよう支援する。また、企業側にも留学生採用に関するガイダンスを提供し、留学生の強みや適性を活かした採用が円滑に進むようサポートしている。こうした取り組みにより、留学生の日本企業への定着を促進している。

以上、Y大学の就職支援は、日本人学生と留学生の双方に対応する体系的なプログラムを提供し、学年ごとに適切な支援を行うことで、学生の主体的なキャリア形成を促している。特に、留学生に対しては、就職ガイダンス、イン

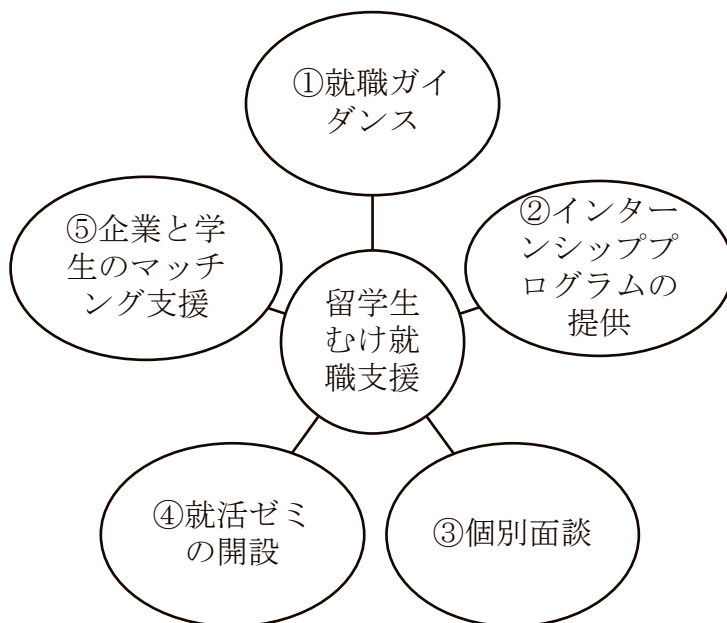


図3 日本大学における留学生向け就職支援の取り組み：Y大学の事例

ターンシッププログラム、個別面談、就活ゼミ、企業との連携によるマッチング支援の5つの柱を基盤とし、包括的なサポートを展開している（図3）。こうした多層的な支援により、留学生は日本の就職市場に円滑に適応し、効果的なキャリア構築が可能となる。今後の課題として、より個別化された支援の強化や、企業側の視点を取り入れたプログラム開発が求められる。

#### 4.3 就職成功事例と失敗事例

Y大学のキャリア支援を受けた留学生のうち、就職成功事例と失敗事例を考察し、それぞれの要因を整理した。

##### (1) 就職成功事例

###### ①成功事例 A さん（2週間で大手内定獲得）

Aさんは中国からの留学生で、日本での就職活動に対して不安を抱えていた。一方、Aさんは日本の企業文化や採用プロセスに対する理解が不足していたが、Y大学のキャリア支援

を活用し、以下の支援を受けたことで短期間で内定を獲得した。

- ・ 情報提供とリサーチ支援：日本の就職市場や企業文化に関する基本情報を提供し、興味を持つ業界や企業のリサーチをサポート。
- ・ 強みのアピール指導：個別面談を通じて自己分析を強化し、自己PRの方法を指導。
- ・ 書類作成の支援：エントリーシートや履歴書の添削指導を実施
- ・ 模擬面接とマナー指導：模擬面接を通じて、日本の面接マナーやコミュニケーションスキルを強化

これらの指導を通じて、Aさんは自信を持って面接に臨み、自身の強みを効果的に伝えることができた。その結果、2週間で大手企業から内定を獲得した。

###### ②Bさん（2か月間で大手内定獲得）

Bさんは日本語能力が不十分で、自己分析が不十分であったが、Y大学の支援により以下の改善が見られた。

- ・自己分析ワークショップを通じて、強みとキャリア目標を明確化
- ・ビジネス日本語トレーニングを受講し、面接での適切な言葉遣いを習得
- ・定期的なカウンセリングにより、モチベーションを維持しながら就職活動を進めた

Bさんは一時的に挫折しそうになることもあったが、最終的には努力を重ね、大手企業から内定を獲得するに至った。

#### ③ Cさん（帰国後の成功事例）

Cさんは日本での就職には至らなかったものの、Y大学での進路指導を受けた後、半年間の準備を経て母国で就職に成功した。Y大学では、帰国後のキャリア形成を支援するために以下の取り組みを行った。

- ・キャリアプランの策定：帰国後の就職市場を踏まえたアドバイスを提供
- ・帰国後のネットワーク構築：母国企業との連携を強化し、就職支援を実施

#### (2) 失敗事例

##### ① Dさん（キャリア相談の継続不足による失敗）

Dさんはアルバイトを優先し、キャリア相談を継続的に受けなかったため、就職活動が後手に回り、日本国内での就職に至らなかった。

- ・課題：相談機会の不足により、就職活動の戦略が不十分であった。
- ・改善策：オンライン相談の活用や、柔軟な相談時間の設定が求められる。

##### ② Eさん（業界研究不足による内定獲得の失敗）

Eさんは、業界研究を十分に行わないまま就職活動を進めたため、適切な企業選択ができず、内定を獲得することができなかった。

- ・課題：業界情報の収集不足により、適切な企業選定ができなかった
- ・改善策：業界研究の強化、企業情報の提供、継続的なフォローアップの充実

この事例から、支援側が業界研究の重要性を再認識し、フォローアップ体制を充実させる必要性が明らかになった。

#### 4. 考察：成功事例と失敗事例から見た就職指導に関する成果と問題点

本研究では、私立Y大学における外国人留学生向けのキャリア支援の実態を分析し、就職成功事例と失敗事例の比較を通じて、その有効性と課題を明らかにした。分析の結果、就職成功には、個別支援の充実、継続的なフォローアップ、日本語能力の向上、業界研究の強化、インターンシップの活用が重要な要因として挙げられた。一方、就職に失敗した事例では、情報不足、適切なキャリアプランの欠如、日本語能力の不十分さが主要な要因であった。以下に、就職成功と就職失敗の特徴を整理し、留学生の就職支援における重要な課題について考察する。

第一に、個別支援の充実が就職成功に大きく寄与することが明らかになった。成功事例では、キャリアセンターによる定期的なカウンセリングや、履歴書作成・面接対策の個別指導が行われていた。これにより、留学生は就職活動のプロセスを理解し、的確な準備を進めることができた。一方、失敗事例では、相談機会の不足により、キャリアプランの策定が遅れ、就職活動の戦略を十分に立てられないまま選考に臨んだことが課題となった。このことから、大学側は、留学生が利用しやすい相談体制を整備し、オンライン相談の導入やカウンセリングの柔軟化を進めることが求められる。

第二に、日本語能力の向上が就職活動の成功に直結することが確認された。成功事例では、ビジネス日本語のトレーニングを受け、企業とのコミュニケーション能力を高めた結果、面接時の自己アピールが効果的に行われた。対照的

表 1 成功事例と失敗事例から見た就職指導に関する成果と問題点

ポイント	就職成功の特徴	就職失敗の特徴
個別支援の充実	定期的なキャリアカウンセリングを実施し、履歴書作成や面接対策を個別指導	相談機会の不足により、キャリアプランの策定が遅れる
日本語能力の向上	ビジネス日本語のトレーニングを受け、面接時の自己アピールが向上	日本語能力が不十分で、業界研究や企業選定に困難を伴う
業界研究の充実	企業訪問ツアーや業界別セミナーを活用し、業界特性を理解	業界研究が不足し、応募企業の選定や面接準備が不十分
インターンシップの活用	日本企業での実務経験を通じてスキルを向上し、就職活動の競争力を強化	企業文化の理解不足や実務経験の欠如が採用選考で不利に
帰国後のキャリア支援	事前にキャリアプランを策定し、母国企業とのネットワークを構築	

に、日本語能力が不十分な留学生は、業界研究や企業選定に困難を伴い、応募の段階で不利な立場に置かれた。この課題に対応するためには、履歴書作成や面接対策に特化した日本語講座の提供、日本語能力試験（JLPT）対策の強化、さらには企業と連携したビジネス日本語実践プログラムの導入が必要である。

第三に、業界研究とキャリアデザインの充実が、留学生の就職成功において重要な役割を果たすことが明らかになった。成功事例の留学生は、企業訪問ツアーや業界別セミナーを活用し、業界特性を理解した上で、自身のキャリアプランに適合する企業を選択していた。一方、業界研究が不足していた留学生は、応募企業の選定が曖昧で、面接準備も不十分なまま選考に臨むことになった。したがって、企業情報の提供、キャリアデザインワークショップの実施、業界研究を促進するためのガイドライン作成など、大学側の支援の充実が求められる。

第四に、インターンシップの活用が留学生の就職成功において大きな影響を与えていることが確認された。成功事例では、日本企業での実務経験を通じてスキルを向上させ、就職活動の際に有利な要素となった。一方、インターンシップを経験していない留学生は、企業文化の理解不足や実務経験の欠如により、採用選考で

の評価が低かった。今後、大学は留学生向けのインターンシッププログラムの拡充を進め、企業との連携を強化しながら、インターン経験を履歴書や面接で効果的に活用するための指導を強化する必要がある。

最後に、帰国後のキャリア支援も、留学生の長期的なキャリア形成において重要であることが明らかになった。成功事例では、日本での就業経験を母国でのキャリアに活かすための支援が行われ、母国の企業とのネットワーク構築がスムーズに進んだ。一方、日本での就職が難しかった留学生は、帰国後のキャリア支援が不足していたため、就職活動が難航するケースが見られた。そのため、大学側は、帰国後のキャリア支援を充実させ、日本企業での経験を最大限活用できるような支援策を講じる必要がある。

## 5. 結論と課題

本研究では、私立 Y 大学を事例とし、外国人留学生向けのキャリア支援の実態を分析するとともに、就職成功事例と失敗事例の比較を通じて、留学生の就職活動に影響を与える要因を明らかにした。分析の結果、個別支援の充実、継続的なフォローアップ、日本語能力の向上、業界研究の強化、インターンシップの活用が、



留学生の就職成功に寄与する要因であることが確認された。一方、失敗事例では、情報不足、適切なキャリアプランの欠如、日本語能力の不十分さが障壁となっており、これらの課題に対応するための支援策の強化が求められることが示された。

本研究の意義は、従来の外国人留学生のキャリア支援に関する議論に対し、成功事例と失敗事例の比較を通じ、大学のキャリア支援の実効性を具体的に検証した点にある。特に、情報提供の充実、文化的適応支援、日本語能力の向上、インターンシップの活用、帰国後のキャリア支援の強化といった要素が、留学生の就職成功に重要な役割を果たすことを示した。これらの要素を統合的に支援することで、留学生の就職成功率を向上させ、より多くの留学生が日本社会に適応し、長期的なキャリアを形成できる環境を整えることが求められる。

一方、本研究にはいくつかの課題が残る。第一に、本研究では中国人留学生を主な対象としているが、異なる国籍の留学生に対する支援の有効性についても検討する必要がある。国籍や文化背景によって就職活動の課題が異なる可能性があるため、より包括的な分析が求められる。第二に、企業側の視点に関する分析が限定的である点も今後の課題となる。留学生の就職支援の有効性をより深く理解するためには、企業が留学生に求めるスキルや適性についての調査を行い、大学のキャリア支援がそれらのニ

ズにどの程度対応しているのかを評価することが必要である。

#### 参考文献

- 九門大士（2022）「外国人留学生の国内就職支援の改善に向けて—非漢字圏出身者と英語コース在籍者の視点から」『日本労働研究雑誌』、2022年7月号（No.744）、pp.23-27。
- 久保田学（2015）「外国人留学生への就職支援の現状と対応策」『留学交流』（48）、pp.22-30。
- 佐藤一郎（2020）「日本における外国人留学生のキャリア形成：言語能力の影響」『留学生研究ジャーナル』12(3)、pp.45-60。
- 寅丸真澄、江森悦子、佐藤正則、重信三和子、松本明香、家根橋伸子（2018）「留学生のキャリア意識とキャリア支援の「ずれ」を考える」『言語文化教育研究』（16）、pp.240-248。
- 潘秋静、李憶南、太郎良留美、富永大悟、倉澤一孝（2023）「私立大学における学生支援の新たな展開」『山梨学院大学経営学論集』第4号、pp.79-93。
- 門間由記子、高橋修、猪股歳之（2019）「就職における困難さの研究—外国人留学生の日本での就職活動に着目して—」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』、第5号、pp.79-92。
- 尹得霞（2019）「外国人留学生の大学院における学習体験が就職後のキャリア形成に与える影響」『先端教育研究実践センター年報』（19）、pp.15-22。

# An Analysis of Success and Failure Factors in the Employment of International Students: A Case Study of Employment Support at a Private University in Japan

Yu DUAN, Qiuqing PAN, Noboru MIYOSHI

## Abstract

This study examines a private university in Japan (Y University) case study to compare successful and unsuccessful employment cases of international students and identify the key factors influencing employment outcomes. The findings reveal that enhanced individual support, improved Japanese language proficiency, strengthened industry research, and active utilization of internships contribute to employment success. Conversely, a lack of consultation opportunities, insufficient industry research, and inadequate Japanese language skills were the primary factors leading to employment failure. Notably, the presence or absence of continuous career support played a significant role in determining the success of international students' job-hunting efforts.

This study provides empirical evidence on the concrete impact of university career support and offers insights into the future direction of such support initiatives. Future research should incorporate employment support cases for international students of diverse nationalities and consider perspectives from employers to establish a more comprehensive framework for international student support.

**Keywords:** international students, career support, job placement guidance, Japan